

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 6 月 20 日現在

機関番号：32630

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K02463

研究課題名(和文)京観世五軒家旧蔵資料の基礎的研究

研究課題名(英文)Basic research on materials from the former collection of the five families of Utai in Kyoto

研究代表者

大谷 節子(Otani, Setsuko)

成城大学・文芸学部・教授

研究者番号：90211797

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：江戸前期から近代にかけて代々素謡を生業とし、京都を活動拠点として畿内外に謡の弟子を有して各地に謡業を広めた五家(浅野太左衛門家、井上次郎右衛門家、園久兵衛(久右衛門)家、林喜右衛門家、岩井七郎右衛門家)伝来資料の内、浅野太左衛門家について、浅野家より京都観世会に寄贈された浅野文庫の悉皆調査と全点撮影を行い、『徒歌授受伝』『能楽余録』『他郷詛盟順簿』他、重要な資料について翻刻を行った。その全体像については影印、翻刻、解題目録、浅野家系図を収録した浅野太左衛門家基礎資料集の2021年度中の刊行を予定している。林喜右衛門家については、軸装を含め新たな史料が見出され、翻刻を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

江戸前期から近代にかけての謡の家の門人録は、各時代の人的交流、文化のネットワークを明らかにする基礎資料である。浅野太左衛門家は『他郷詛盟順簿』を除き、他家のように各代を網羅した門人録を失っているが、八代目の栄足が「徒歌者流」の「記簿」を集成すべく文政三年に橘園蔵板として刊行した『門生録』が一冊のみ伝えられており、これによって浅野家も「京観世」の他家同様、広範囲に亘る謡業の門人養成がなされていたことが裏付けられた。また、浅野家九代栄應作成の浅野家蔵書改正目録の紙背は、加藤宇万伎『土佐日記解』の栄足による書写本であることが判明し、他の筆写本の識語からも栄足と国学者との交流が具体的に跡付けられた。

研究成果の概要(英文)：Five utai families(Asanotazaemon-ke, Inouejirouemon-ke, Sonokyubei-ke, Hayasikiemon-ke and Iwaisitirouemon-ke) based in Kyoto from the early Edo period to the modern age spread utai-gyo(teaching method of utai) through their pupils. I researched and took pictures of all pages of Asanobunko documents which were donated to Kyoto-Kanze-kai by Asano-ke. I transcribed important materials especially, "Tokajujuden徒歌授受伝", "Nougakuyoroku能楽余録", "Tagousomeijunbo他郷詛盟順簿". I am going to publish in 2021 some of these photographs, transcriptions, bibliographical introductions of all documents and family tree of Asano-ke.

研究分野：国文学

キーワード：京観世 謡 浅野太左衛門 浅野文庫 浅野栄足

## 1. 研究開始当初の背景

近世文化に謡の影響があることは自明の事柄に属するが、その深層は現在考えられている範囲に収まるものではない。かつて「京観世」の謡は、京都周辺地域で謡われていた特殊な謡い方と理解されてきたが、申請者は、その中核を担っていた五家（岩井七郎右衛門家・藺久兵衛家・井上次郎右衛門家・林喜右衛門家・浅野太左衛門家）の末裔を訪ねて資料調査を行い、この五家は近世において京都市中のみならず、たとえば井上次郎右衛門家の場合、大坂、近江、讃岐、伊予、土佐、備前、備中、備後、丹波、丹後、越前、美濃、信濃、上野と広範囲に門人を有し、各地で謡指南をし、素謡会を催していたことが明らかになった（「京観世続貂 井上次郎右衛門家を中心に」『神女大國文』10号、1999年）。また、謡講、各地の素謡会といった素謡享受の場は、俳諧、蹴鞠、香、茶などの雅交の場とも重なっていたことが、林喜右衛門家の資料から確認された（「素謡の場 京観世林喜右衛門家と田福・月溪」『神女大國文』11号、2000年）。

近世前期以来の謡の家に伝えられた資料の調査は、近世の謡文化のみならず、近世文化の人的交流を知る宝庫といえる。現在、浅野太左衛門家旧蔵書は、その大部分が京都観世会に寄贈され、何らかの事情で浅野家より散逸した一部が法政大学能楽研究所等に所蔵されている。藺久兵衛家旧蔵資料は、京都観世会に寄贈された資料の他、神戸女子大学古典芸能研究センター所蔵のものが知られている。井上次郎右衛門家旧蔵書は、法政大学能楽研究所に所蔵されている。岩井家旧蔵資料の大半は、弟子家である個人の所蔵であるが、近年、岩井家に残されていた資料の一部が京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センターに寄贈され、公開されている。林喜右衛門家は唯一現在も能に従事している家であり、申請者は以前に調査を行っているが、近年新しい資料が発掘され、再調査の必要がある。このように浅野太左衛門家、藺久兵衛家、岩井七郎右衛門家、井上次郎右衛門家については蔵書の多くが大学などの公的機関に寄贈され、悉皆調査が可能となり、新しい研究段階に進む好機を迎えている。

## 2. 研究の目的

能が謡を通じて中世以後近代に至る日本文学、日本文化に与えた影響は多大である。謡は娯楽である以前に素養であり、社交の道具であり、各身分層、各地域層の儀礼にも深く関わっていた。畿内のみならず各地方での謡の流布の中核を担っていたのが、京都を地盤として両御所や本願寺に出勤し、謡を専業とした五家（岩井七郎右衛門・藺久兵衛・井上次郎右衛門・林喜右衛門・浅野太左衛門）であった。この五家に伝えられてきた資料を調査することによって、近世から近代にかけての謡教授の実態を明らかにし、謡会、謡講の場と、和歌・俳諧・蹴鞠・香・茶などの雅交の場との重なり、文化ネットワーク解明のための基礎資料集の作成に着手する。

## 3. 研究の方法

浅野家旧蔵資料の悉皆調査を行い、全点の詳細な解題目録及び浅野家系図を作成し、江戸時代中期の謡の隆盛において浅野家が果たした役割を考察する。浅野栄足の著作を収集し、主たる著作の翻刻を行う。岩井家旧蔵資料については、散逸している各地の文献を調査し、江戸中後期に記された『岩井家蔵書目録』と照合し、解析を進め、岩井家旧蔵資料の全体像

を可能な限り明らかにする。井上次郎右衛門家旧蔵資料については、近代以降の未整理の文献の整理を進める。園久兵衛家旧蔵資料については調査済みの資料の解析を行う。

#### 4．研究成果

京都観世会に寄贈された浅野太左衛門家旧蔵書(京都観世会浅野文庫)については悉皆調査と全点撮影が完了し、『徒歌授受伝』『能楽余録』『他郷詛盟順簿』など重要な数点の資料について翻刻を公刊した。2017年には京都観世会館内の展示スペースにおいて解説を付して同文庫の展示を行った。また、蔵書の主なものの紹介を京都観世会発行の『能』に掲載した。

浅野家の門人記録は、『他郷詛盟順簿』でその一端が知られるが、井上次郎右衛門家や園久兵衛家に残っているような各代を網羅した状態では残されておらず、その全貌を知ることができないが、浅野家八代栄足は、門人個々の入門以後の習熟過程を記録するための『門人録』を刊行している(橘園蔵板。浅野栄足の子である栄應が作成した蔵書改正目録の段階では三冊が浅野家に伝えられていたが、現存するは一冊のみ)。同書表紙見返しには栄足の言「此書は全ら徒歌者流の為にして、其家々の生徒の姓名、はた其人の上に係りたる事蹟どもを記しおきて、後世までも門生の名の空しからざらむことを欲せし事の設なり。はじめに年号次第速知とて記し出たるは、後に其年数を検閲ことあらむに、便よからしめむが為なるなり。世の徒歌者流、必用全務の記簿なり。」が記されており、同家門人の記簿(記録)の筆録によって「門生」、「徒歌者流」生徒統括、養成の意図が読み取れる。

なお、この栄應作成の蔵書改正目録の紙背は、加藤宇万伎の『土佐日記解』栄足写本である。浅野文庫の資料からは、このように栄足が国学を学び、和歌を詠んだ軌跡を伺うことができるが、栄足がこうした関心を示した動機の一つには、謡業の意義付けを行う意図があったものと思われる。浅野家蔵書から門人録の大半が失われていることは残念であるが、残された資料からは京都の富裕商人層、主要な寺社の僧、神官が謡の門人であったことが窺われる。

浅野浅野文庫全点の詳細な解題目録、貴重資料数点の翻刻、系図を収録した浅野太左衛門家基礎資料集成を2021年度中に刊行し、浅野文庫についての研究報告と展示を2021年度の能楽フォーラム(主催能楽学会)で行う予定である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 大谷節子	4. 巻 20
2. 論文標題 能「花筐」と「李夫人の曲舞」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 白居易研究年報	6. 最初と最後の頁 109-135
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大谷節子	4. 巻 43
2. 論文標題 狂言「無言行」考 悟りと笑い	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 成城国文学論集	6. 最初と最後の頁 5-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大谷節子	4. 巻 69
2. 論文標題 世阿弥の「世界劇場」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 演劇学論集	6. 最初と最後の頁 75～89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大谷節子	4. 巻 42
2. 論文標題 浅野太左衛門家旧蔵『他郷詛盟順簿』解題と翻刻並びに影印	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 成城国文学論集	6. 最初と最後の頁 55-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大谷節子	4. 巻 95巻9号
2. 論文標題 狂言「八句連歌」の「をかし」 狂言と俳諧連歌	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国語と国文学	6. 最初と最後の頁 3-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大谷節子	4. 巻 41
2. 論文標題 狂言「しゅ杖」と『無門関』第四四則「芭蕉しゅ杖」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 成城国文学論集	6. 最初と最後の頁 5-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大谷節子	4. 巻 719
2. 論文標題 林喜右衛門家について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 能	6. 最初と最後の頁 1-1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大谷節子	4. 巻 40
2. 論文標題 浅野太左衛門家旧蔵『徒歌授受伝』『能楽余録』解題と翻刻	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 成城国文学論集	6. 最初と最後の頁 61~88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 大谷節子
2. 発表標題 世阿弥の「世界劇場」
3. 学会等名 日本演劇学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------